郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財　白鷺神社の日光石の鳥居

今月紹介するのは、白鷺神社にある日光石の鳥居です。

この鳥居のある白鷺神社は、上三川の市街地中央に位置し、上三川を代表する神社といっても過言ではありません。白鷺神社の創建にかかわる話はいくつかあり、奈良時代の783年に下野国司が、日本武尊（やまとたけるのみこと）が休憩した場所に祠（ほこら）を建てて白鷺明神としたという話や、疫病が流行したときに日本武尊のお告げを聞いた下野国司が、祠を建てて祈願したところ、たちまち疫病の流行が止まったという話があります。また平安時代の849年に大干ばつがあった際に、神のお告げによって井戸を掘ったところ、「日本」と書かれた大きな石があり、それを取り除いたところ、泉が湧き出し、作物がよみがえったことから、「日本」（やまとたける）武尊のおかげだということで、祠を建てて鷺明神と称したとも伝えられています。

時が下り、上三川城が築城された直後である鎌倉時代の1250年に、初代城主横田頼業（よりなり）が、宇都宮の二荒明神の御祭神を白鷺神社に勧請したことにより、上三川城のまさに守護神となります。そして室町時代の1380年の裳原（もばら）の戦いに際しては、上三川城を攻めた小山義政の軍勢が、神社の森に現れた白鷺の群れを、兵たちが持つ白旗と見誤り、戦わずして引いた話も伝わっており、上三川の歴史に欠かすことのできない神社なのです。

さてこの鳥居は、昭和50年代に資源が枯渇し、採掘禁止になった日光石（徳次郎石）で作られています。掲げられている銅製の鋳物の額は、宝永5年（1708年）9月、現在の茨城県古河市猪瀬彦右衛門の寄進で、佐野の丸山善太郎が作ったと記されています。寄進者の資料は残されていませんが、名前から上三川に出自を持つ人だと思われます。表面の「正一位鷺大明神」の七文字は玉置喬直の書で、落款も刻まれています。

現在は神社の西側、県道に面して建っているこの鳥居は、以前は神社参道の最南端であった普門寺の東に、一の鳥居として立てられていました。自動車社会の進展に伴う県道拡幅によって、現在地に移転しましたが、当時の参道の両側には吉野桜の並木があり、花の季節には美しかったことが語り継がれています。場所は違えども、現在も残るこの鳥居は、上三川の古き良き時代を見続けた証人と言えるかも知れません。

日光石の鳥居

時代	西暦	元号	できごと
	783	延暦2	**この年、白鷺神社が創建されたという。**
	1250	建長2	**上三川城初代城主横田頼業が白鷺神社に二荒明神の御祭神を勧請し合祀する。**
	1380	康暦2	**裳原の戦い。**
江戸時代	1611	慶長16	足尾銅山が幕府の直轄となる。
	1617	元和2	日光東照宮完成。
	1622	元和8	烏山藩主成田氏、家督争いにより改易。上三川の成田氏領が天領となる。
	1636	寛永14	日光東照宮大造営工事が完成する。
	1651	慶安4	将軍家光死去。日光に埋葬。
	1680	延宝8	鬼怒川大洪水。
	1689	元禄2	松尾芭蕉、下野を巡行する。
	1700	元禄13	日光奉行がおかれる。
	1708	宝永5	**白鷺神社日光石の鳥居が建てられる。**
	1712	正徳2	鳥居忠英、壬生藩主となる。近江より干瓢を伝える。
	1716	享保元	徳川吉宗、将軍に就任する。
	1729	享保14	幕府、関東の農村に菜種栽培奨励。
	1764	明和元	宇都宮藩領で籾摺騒動が起きる。
	1771	明和8	このころ、伊勢参りが大流行する。
	1783	天明3	浅間山噴火、冷夏で凶作が発生する。
	1789	寛政1	幕府、下野からの出稼ぎ奉公を禁止。